

平成27年度 第2回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

平成27年10月13日（火）15時30分から、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

（議事内容）

○場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

○出席者 委員：17名 オブザーバー：24名 計41名

○結果報告

【三浦会長の開会挨拶】

本日はご多忙のところご出席を賜り、御礼申し上げます。

さて、第1回の協議会を開催した6月30日以降、中心市街地活性化へ向けた新たな動きが公表されました。県、秋田市連携で整備予定の「新文化施設」は、9月1日に、現県民会館の敷地に建設される方針が示され、旧県立美術館についても、芸術文化交流施設として活用する意向が示されました。

また同日、県・秋田市・JR東日本秋田支社とで連携協定が締結され、「地域創生に向けたコンパクトなまちづくり」に連携して取り組む事になりました。更に先週、市議会において、第2期中活計画策定に向けた補正予算が可決されたところです。

本日の協議会では、これらの状況について詳細を報告させていただくとともに、新たにJR東日本秋田支社 白石支社長様に委員として加わっていただき、情報の共有を図ってまいりたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、今後皆様の英知を結集して、中心市街地活性化第二の矢に向けて、まい進してまいりたいと存じますので、関係各位の、ご支援・ご協力をお願い申し上げ、開会のご挨拶といたします。

【委員紹介】

事務局から、JR東日本秋田支社 白石支社長が新たに委員に加わった旨を報告した。

【白石支社長挨拶】

この度の協議会から、委員として参加させていただくことになりました。当社も、経営ビジョンとして、「地域に生きる」という方針を掲げており、このような考え方の基、県、秋田市と連携協定を締結させていただき、併せて、秋田支社の建て替えをプレス発表させていただきました。

駅周辺の土地を活用して、秋田市の玄関口である秋田駅周辺の賑わい創出にこれから取り組んでいこうと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【内容】

（1） 第2期秋田市中心市街地活性化基本計画の策定に向けた動向について

① 県・市連携文化施設の整備方針（案）について

② 旧県立美術館の活用方針（案）について

を併せて、秋田市企画財政部企画調整課細谷課長から報告があり、秋田県観光文化スポーツ部文化振興課免澤主幹兼班長より補足をいただいた。

③ 県・市・JR 東日本の三者による連携協定について

④ 秋田駅周辺の JR 東日本用地の開発について

を併せて、JR 東日本秋田支社白石支社長から報告があった。

⑤ 大町地区開発に関するまちづくり会社の設立について

大町商店街振興組合高堂理事長が欠席のため、代理として広小路商店街振興組合佐々木清理事長より報告があった。

⑥ 第2期秋田市中心市街地活性化基本計画の策定について

秋田市都市整備部都市総務課根田課長より報告があった。

(2) 秋田市中心市街地にぎわい創出事業の実施について
事務局から実施内容についての説明を行った。

(3) 秋田市中心市街地のその他動向について

① 秋田パティオの地域商業自立促進事業について

② 仲小路の地域商業自立促進事業について

を併せて、仲小路振興会新開会長より報告があった。

③ 中心市街地連携イルミネーションについて

秋田市企画財政部内藤副理事より報告があった。

【その他】

(1) 情報提供 東北経済産業局

平成28年度及び平成27年度施策について説明と情報提供をいただいた。

(2) その他

広小路商店街振興組合佐々木理事長より地域カード等について報告があった。

会議では、次のような質疑応答や意見が出された。

○ 内容(1) ① 県・市連携文化施設の整備方針（案）について

木内委員（秋田まちづくり株）

広小路と中央通りの一方通行の解除について、商業者としての提案事項のリストの中にあると思うが、JR 関係、新複合文化施設と出てくると必ずこの一方通行の問題が出てくる。そういった意味では、もう少し位置づけを高くして、施設を作る大前提が一方通行の解除であるという位置づけで取り組んでほしい。

三浦会長

当所としても、前会頭もはっきり申し上げております通り、私自身もそれについて問題提起をしていくという想いはあるが、現在は進捗状況等について調査をさせている段階である。貴重なご意見として承りたい。

木内委員（秋田まちづくり㈱）

駐車場については、有料を前提としたものなのか、それとも無料なのか。

兎澤主幹兼班長（秋田県観光文化スポーツ部文化振興課）

今現在ははっきりと決めている訳ではないが、市の文化施設については他県の例を見てもいっくら頂戴している状況であるので、それを前提として考えてもよいのではないかと考えている。

木内委員（秋田まちづくり㈱）

全くその通りで、なかいちの駐車場についても、現在は30分無料だが1時間無料にしるとか必ず「無料」の問題が出てくる。駐車場というのは受益者負担だとみんなわかっているはずだが、どうも郊外につくると無料になるのではないかという妄想を抱いている人が多いのではないかという気がする。

駐車場は受益者負担であり、行政が相当な負担をしてこの価格になっていることをもう少しわかっていたらと議論が変な方向にいつてしまう。そういった意味からも、利用料金についてはもう少し固めて向かって行っていただきたい。

佐々木清委員（広小路商店街振興組合）

県市連携文化施設が、今の県民会館の跡地に決まったということについては大変喜んでいる。それはそれで大変ありがたいことだが、是非この機会に、新しい芸文施設に関しては千秋公園の真正面という立地もあり、市のシンボル、県のシンボルでもあるのでデザインを考えて欲しい。

こういったホール施設というのは、実際は年間の3分の1も使われていない。だから徹底的にデザインにはこだわってすばらしい建物にしていってほしいということは強くお願いしたい。

小杉委員（秋田公立美術大学准教授）

色々お話を聞かせていただき、コンパクトシティの序章が始まったと感じている。3者協定も結ばれたということで、中心市街地に徹底的に手を加えていくという意思があるのだということを感じ、大変喜ばしいと思った。その中で、県市連携施設も郊外に移行せずに残ったというのは、喜ばしいことだと考えている。

まちづくりは長期間に渡って取り組まなければいけないものであり、あまりにも短期間で色々求めてコロコロ変えていくと、文化の創造というのは難しくなりがちである。そのため、ある程度の時間をかけてブランド化をしていく必要があると思う。

さらに、旧県美もアトリオンもいろいろ話はあったようだが、美術館として残すということで大変喜ばしく思う。今、秋田市からの話にもあったが、当大学の学生の作品を展示するということで大変ありがたく思うのだが、実は今新しい県立美術館等でも、市民が広く作品を展示できるようなスペースはある。当大学だけを考えると、学生が増えて生きた時に展示スペースはどうするんだという問題はあるが、箱物的スペースがあるからと言って市民や学生が展示できるような場所を作るだけというのはどうなのか。皆さんご存知の通りあのスペースは専門家から見ても美術に特化した空間となっている。光の状態も素晴らしいし、あれだけ天井高のあるスペースとい

うのはなかなか使いこなせないくらいのレベルの高い空間である。だから、それを使いこなせるような組織、簡単に言うとコンテンポラリーアート、現代美術館のような今ある県立美術館と毛色が違う組織を作っていくことで、このエリア全体にシナジー効果をもたらし、いい空間ができるようにもって行っていただきたいなと思っている。

時間はかかるかもしれないが、しっかりした組織を伴った施設にしていきたい。そのためにはうちの大学も協力は惜しまないし、大学の教員の中には全国的、世界的なコネクションを持ったスタッフもいるので、ご活用いただければと考えている。

木内委員（秋田まちづくり株）

公共交通を大いに利用するものを作ると知事も市長もおっしゃっている様なので、本当に公共交通を利用できる施設づくりというのはどのような文化施設かというのを考えて欲しい。出来上がったものはそうではないケースも多い。どのように公共交通を利用するのかという観点から先に考えてほしい。

また、中身のデザインよりも機能だと私は思っているので、装飾とかを抜きにしてシンプルで機能的な文化施設の方が合っているのではないか。

今後会議所が入った整備委員会みたいなものが出来るとすれば、是非その中でこういった話もしていただきたいなという想いがある。

小杉委員（秋田公立美術大学准教授）

必ずしもデザインと機能は相反するものではない。装飾的に華美なものはないとは思いますが、デザインと機能というのは統合されていくものであるはずである。

バブル以降、税金の無駄遣いだということで公共施設についてはコストをものすごく絞ったものが多いが、結果としてどのようなものができるかという、安ければいいという公共施設が全国的にどんどん増加している。しかし、果たして本当にそのような施設が公共施設の役割を果たしているのかというのは再考しなければならない。

○ 内容（１）④秋田駅周辺の JR 東日本用地の開発について

木内委員（秋田まちづくり株）

先ほど JR 東日本から秋田駅周辺の開発についてご説明をいただいた。駅前広場については今回の計画に記載がないようだが、何かプランはお考えか。

白石委員（JR東日本秋田支社長）

西口の現状がベストとは思っていないので、色々な検討をしていかなければいけないと思っているが議論中である。例えば自社ビルの敷地内にある JR レンタカーの営業所代替地の問題。より利便性の高い所へ持って行ってレンタカーの使い勝手をよくする必要性はある。

また、駅周辺の駐車場も必ずしも足りていないので、駐車場の機能を増強する等、そういったことが検討課題になると思う。

ご意見をいただいた件については JR だけの問題ではなくなるが、駅前広場の交通自体が必ずしも使い勝手がよくないので、これも併せて行政でご検討いただくと、民間と行政が一体となって駅前広場が使いやすくなるのではないかと考えている。これは今後の検討課題ということになると思う。

○ 内容（１）⑥第２期秋田市中心市街地活性化基本計画の策定について

佐々木委員（NPO 法人 秋田バリアフリーネットワーク）

第２期計画を策定するという事で、大変結構なことだと思う。しかし、この機会に「コンパクトシティ」というものをもう一度考えてほしい。というのは、実際は「コンパクトシティ」とは全く反対の現象が起こっており、諸悪の根源といわれる、「都市のスプロール」が起きているということである。第２期計画を策定する際には、この点を踏まえて是非コンパクトシティを実現させて欲しい。

具体的には、例えば道路交通の問題がある。どのような状況になっているかという、簡単に言えば人と車の争いである。今は車が勝っている。中央通りのある交差点では、車は 30 秒待てば通行できるが、人は 110 秒待たないと通行できない。実に約 4 倍である。これで分かるように車が優先になっている現状があり、これについてももう少し考えていかなければいけない。

原点に立ち返り、コンパクトというのであれば歩いて暮らせるまちづくりはどうするのだということ踏まえながらいかないと、錯覚、一種の思考停止が起こってしまうのではないかと思う。

三浦会長

委員から「都市のスプロール」とおっしゃったが、皆様に分かりやすくご説明いただきたい。

佐々木委員（NPO 法人 秋田バリアフリーネットワーク）

要するに都市の拡散である。コンパクトシティというのは、大体直径 1.6 キロ範囲内で土地の集約が行われている。だから歩いて暮らせる。それを急に、車で行かなければいけないような所まで都市が広がって歩いてください。これは無理だろう。現状は仕方ないにしても、今後については現状を踏まえたくて何が出来るのかということを考えていかなければならないと思う。

○ その他（２） 佐々木清委員からの報告内容

佐々木清委員（広小路商店街振興組合）

・地域カードについて

地域カードについて報告する。実態は、「決済環境の整備」「銀聯カードが使える」とか、「交通機関での支払いの簡便さ」とか、「様々なポイントが使える」等であるが、実はそれ以上に地域の経済と知恵をリンケージする力がある。

行政サービスの簡易化の先には、かつて市の環境部がお考えになったボランティア活動への参加をポイント化するとか、エコポイント等、様々な市民活動を官民がポイント化することで、新しい地域参加への道が必ず開けてくる。そしてその先には、地域の政治経済、心情までをネットワークする力があるのではないかと考えている。

この取り組みが、オリンピックまでにペイメント環境整備を目指す経産省の注目するところとなり、こうした事業に精通したコンサルタントのご紹介をいただき、先進事例として様々な交付金等のバックアップを頂ける環境が整いつつある。

また、日商連本部も全国で利用できる地域カードの基幹システム立ち上げを決定し、大きく動いている。現時点で想像できる完璧な地域カードシステム開発に伴う膨大な費用が軽減できる状況にあり、既にコンサルタントさんと関係各所をヒアリングし、かなりの賛同をいただいている。

事業を進める環境の地ならしも進み、いよいよフィージビリティ・スタディ（F/S）作業を行う委員会立ち上げのところまで来ている。

あとは行政の皆様にご協力をいただき、F/S の受託、委員会設置へとコマを進めたい。経済産業省の補助を最大限活用するためには、行政機関内に事務局又は委員会の設置が有利であり、今後それを打診していきたい。もちろん中活においても、計画の中で取り上げていただきたいと考えている。利便性についての可能性は大きく広がっているので、今後も経済基盤の一つとして地域カードを使えないかということを考えながら進めてきたいと考えている。

- 広小路商店街振興組合の取組について

仲小路振興会新開会長から歩行者専用道路化の話があったが、広小路も千秋公園という地域資源を徹底的に活用した取り組みを進めていく。例えば、旧県立美術館の話も出ていたが、あそこのお堀にあるハスの葉は、全国的にも有名になっているため、たもとにスターバックスを誘致したらどうかという案がある。富山を抜いて、日本一美しいスターバックスを作るという提言等も含め、地域資源を有効に使うという尺度をもって取り組みをしていく。

閉 会